

栃木県埋蔵文化財 センターだより

発行 平成24年6月15日
栃木県教育委員会
宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2012
6月
やま
かい
どう



CONTENTS

- 平成23年度栃木県内の発掘調査情報
- ・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から
西刑部西原遺跡(宇都宮市) 甲塚古墳(岩舟町)
市ノ塚遺跡(真岡市)

- ・市町教育委員会が実施した発掘調査から
新郭30号墳(壬生町) 西海道遺跡(真岡市)
間々田八幡前遺跡(小山市) 岡本城跡(宇都宮市)
鹿沼城跡(鹿沼市) 唐沢山城跡(佐野市)
- 平成23年度栃木県内発掘調査一覧
- 平成23年度栃木県発掘調査動向
- 平成24年度巡回展「栃木の遺跡 -最近の発掘調査成果から-

■平成23年度栃木県内の発掘調査情報

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から

1. 西刑部西原遺跡(宇都宮市) -どこからきたのか黒曜石-

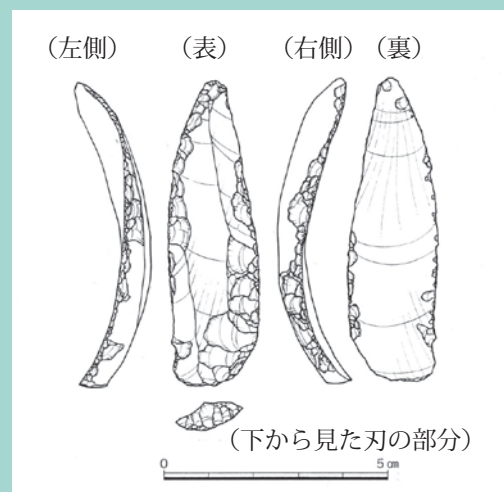
皆さんは黒曜石を知っていますか? 黒く輝くこの石、溶岩が急激に冷えてできた天然ガラスの一種なのです。国内では北海道白滝や長野県和田峠、神奈川県箱根、伊豆諸島の神津島など多くの産地があります。栃木県では矢板市の高原山が有名ですが、標高約1500mの高地であるため、簡単に採りに行けるものではありません。しかし切れ味鋭く加工しやすい黒曜石は、好んで石器の素材に選ばれ、遠く離れた場所に運ばれました。

石器の実測図には、周囲を丁寧に加工して刃を付けた様子を表現しています。木や骨を削ったり、皮を剥ぐのに使った石器です。この石器の産地を理化学的に分析したところ、地元高原山の黒曜石ではなく、長野県諏訪産と判明しました。このほかの長野産と考えられる黒曜石が、石器類483点のうち90%近くを占めていました。付近からは、これほど遠隔地の黒曜石を主体とした遺跡は見つかっておらず、貴重な発見となりました。

旧石器時代の人々は一定の場所に長く住み着かず、移動を繰り返す生活(遊動生活)をしていたようです。そのような中、黒曜石はどのような経路で遺跡にもたらされたのでしょうか。近くに住む人々と交換したのか、それとも長野まで採りに行ったのか、はたまた現地から直接運んだ人がいたのでしょうか? 産地から西刑部西原遺跡までのルート上にある遺跡から出土した石器と比較しながら、考えていく必要があります。



西刑部西原遺跡の石器類(半透明で良質の黒曜石が多い)



石器実測図

2. 甲塚古墳（岩舟町）^{かぶとづか} -古墳の形・規模を確認-

甲塚古墳は、岩舟町域の大型の古墳として従来から知られていましたが、これまで発掘調査を行ったことがなく、古墳の形や大きさも明らかではありませんでした。そこで、これらの点を明らかにするために確認調査を行いました。

その結果、古墳は円墳で、二段に造られ、外周に広い平坦部（墳丘第一段）と溝（周隴^{しゅうろう}）があることがわかりました。その規模は、周隴の外径92.0～94.8m、墳丘第一段の径78.1m、周隴の底から墳頂までの高さ9.3～9.8mでした。墳丘が二段になっている点は栃木県南部の古墳の特徴です。周隴や墳丘から、円筒埴輪や人物・盾か靱形埴輪の破片が出土しました。円筒埴輪は、基底部の低い位置に突帯を貼ったものが大半で、口縁部には粘土の帯を貼り付けたものが確認できました。この特徴は、群馬県から栃木県南部の埴輪にみられ、甲塚古墳から西約4.5kmの位置にある唐沢山周辺の窯で焼かれたと考えられます。これらの特徴から、甲塚古墳の被葬者は群馬・栃木県南部域の東西の交流に関わった地域の首長であったと考えられます。



空から見た甲塚古墳（西上空より）



人物埴輪（顔の部分）

3. 市ノ塚遺跡（真岡市）^{いちづか} -縄文早期の陥し穴^{おとあな}を発見-

真岡市高田地内にある市ノ塚遺跡は、小貝川西側の低い台地の縁辺に立地します。縄文時代、古墳時代および中世の遺構や遺物が発見されました。前号では古墳時代を中心に紹介しましたので、今回は縄文時代早期（約10,500年前）に焦点を当てます。

長さ約2.6m、幅約0.6m、深さ1.0mの細長く深い穴が発見されました。このような穴は“陥し穴”と考えられています。幅が狭いため、シカやイノシシなどが落ちると身動きがとれなくなります。“ケモノ道”に仕掛けられたようです。発見された土器から、縄文時代早期に作られたことが判りました。

縄文土器は、色々な文様が付けられていることが多いのですが、市ノ塚遺跡から出土した早期の縄文土器は、表面に全く文様がありません。このような土器は、茂木町の天矢場遺跡からまとまって発見され、千葉、茨城、栃木、福島^{てんやば}の4県に広がることが判っています。

縄文時代早期の市ノ塚遺跡では、土器を用いた煮炊きや陥し穴を用いた“狩”が行われていたようです。



陥し穴（SK-303）



出土した早期の縄文土器

市町教育委員会が実施した発掘調査から

4. ^{しんくるわ}新郭30号墳（壬生町）-堀をもたない古墳-

新郭古墳群は、壬生町北部の羽生田地区にある古墳群です。羽生田地区には6世紀の後半から茶臼山古墳、富士山古墳、長塚古墳、そして桃花原古墳の順に有力者の古墳が築かれました。新郭古墳群は、長塚古墳の周囲に築かれた主に約30基ほどの円墳からなる古墳群です。

今回発掘調査が行われた新郭30号墳は、赤土採取の際に発見された古墳です。石室は川原石を積み上げて造られていました。石室は奥壁や死者を埋葬した玄室の入口部分の石が抜かれ、石室内から出土品は発見されませんでした。石室の周囲には石室の天井石と思われる大型の石が数点転がっていたことから、盗掘により副葬品も持ち去られたものと考えられます。壬生町周辺の古墳の多くは、横穴式石室を地下に造るため、墳丘が壊されても畑の下から、石室の一部が出土することが多くあります。

また本古墳からは、墳丘のまわりに掘られる周溝が発見されていませんので、墳丘のみが造られた簡略化された古墳と考えられます。

壬生町教育委員会（0282-82-8544）



新郭30号墳（写真奥は長塚古墳）



新郭30号墳石室（南西から）

5. ^{にしかいどう}西海道遺跡（真岡市）

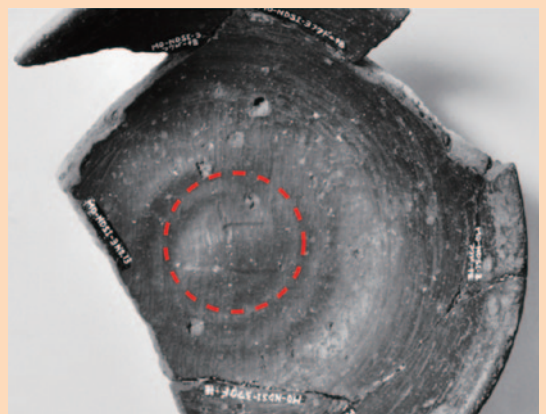
1万人プールのある真岡市井頭公園は、「井頭」の地名が示すように、ここから南流する川の水源があります。井頭公園の造成の際には、この川の両側が「井頭遺跡」として発掘調査され、弥生時代から平安時代の竪穴住居跡が約150軒見つかっています。井頭遺跡は、水田開発に伴う人々の水源域への進出と、水田開発の結果としての集落の大規模化を示しています。

芳賀地区広域ゴミ処理施設建設に伴い調査された西海道遺跡は、この井頭遺跡の南約1.5kmにあり、井頭の水源地から南流する川の東側丘陵上にあります。調査の結果、縄文時代中期の袋状土坑2基、古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡5軒、時期不明の土坑・小穴30基が見つかっています。このうち平安時代の竪穴住居は、出土遺物から9世紀後半以降と考えるものであり、井頭遺跡の最終時期と一致します。井頭遺跡の集団が、9世紀後半には水源の下流1.5kmまで開発を進め、集落の一部がここまで広がったと見ることもできるかもしれません。10世紀以降、この水源を利用してきた集団は忽然と消えます。その理由と行方は謎です。

なお、遺跡からは「上」の字をへら書きした土器が出土しています。真岡市教育委員会（0285-83-7731）



調査区全景



「上」の文字がへら書きされた土器
（写真中央部分）

6. ^{ままだはちまんまえ}間々田八幡前遺跡（小山市）—鎌倉道を確認—

^{ままだはちまんまえ}間々田八幡前遺跡は、市街地から南方約13km、思川東岸台地上に所在しています。

調査の結果、道路跡1条、古墳時代の竪穴住居跡1軒が確認されています。今回の調査で注目されるのは道路跡です。調査区内で長さ約21m、路面幅は約10mで両側の側溝を含めると約14mになります。側溝の上幅は約1.2m、深さ30～40cm、断面は逆台形になっています。

この道路跡と同じ形状の道路跡が小山市内の^{とじょう}外城遺跡や^{みやうちきた}宮内北A・B調査区において調査されており、その道路跡は鎌倉道であったと考えられています。今回調査したこの道路跡は、この鎌倉道の道筋にあり、台地の縁辺を貫く中世の主要道であったと推定されます。

小山市教育委員会（0285-22-9668）



調査区遠景（北東から）



鎌倉道（北から）

7. ^{おかもとじょうあと}岡本城跡（宇都宮市）—二ノ堀と三ノ堀の間に南北方向の堀跡を確認—

岡本城跡は、宇都宮市中岡本町城ノ内に所在する中世の平山城です。平成23年度に実施した第3次調査では、城跡の現況把握と範囲確認のための調査を行いました。

今回の調査では、次の4点が判明しました。①二ノ堀と三ノ堀との間に今まで知られていなかった南北方向の堀跡を確認しました。堀の断面を観察した結果、この堀は二ノ堀よりも古い時期のものであること、4回掘り直されていることが分かりました。②現在ほとんど埋まってしまっている二ノ堀を確認しました。前回の調査成果と合わせて考えると幅8～10m、深さ4～5mの堀と推定されます。また、二ノ堀の南側に古い時期の溝を確認しました。③^{とぐち}虎口部分で柱穴を2ヶ所確認しましたが、門に関するものかどうかは不明です。④東側の崖際において、土塁の下から古い時期の^{やげんぼり}薬研堀を確認しました。この堀も2回掘り直されていることが分かりました。

以上の調査結果から、この城は改修工事が数回行われ、最終的に深い堀と土塁をもつ本格的な戦国期の城になったことが分かりました。

宇都宮市教育委員会（028-632-2764）



南北方向の堀跡確認状況（西から）



虎口部分柱穴確認状況（南から）

8. ^{かぬまじょうあと}鹿沼城跡（鹿沼市）－中近世の掘立柱建物跡を発見－

鹿沼城跡は鹿沼市役所西側の丘陵縁辺に展開する、戦国時代末期の壬生氏の居城です。発掘調査は市立中央小学校改築に伴うもので、平成20年度に第1次調査を実施し、16世紀前半の堀跡が見つかりました。小学校の敷地は古くから「御殿場」とよばれ、戦国期においては壬生氏の館、近世には鹿沼藩の陣屋あるいは徳川将軍家の日光社参時の殿舎があったとされています。

平成23年度に実施した第2次調査では、中近世の掘立柱建物跡2棟をはじめ、古墳時代前期の竪穴住居跡などが確認されました。掘立柱建物跡は、桁行8間・梁行3間（18×6m）と、桁行6間以上・梁行2間（11.8以上×7.4m）の南北棟の建物で、2棟はほぼ同じ軸で隣あっています。前者の柱穴は、径1m、深さ0.8mのしっかりした掘り方です。後者の柱穴の底面には石が据えられているものが多く、建て替えの痕跡もみられます。柱穴の掘り方や配置に違いがあることから、時期あるいは性格が異なる建物と考えられます。遺物がほとんど出土していないため、明確な時期は不明ですが、「御殿場」の解明につながる建物跡と考えられます。

鹿沼市教育委員会（0289-62-1172）



掘立柱建物跡の完掘状況全景



発掘調査風景

9. ^{からさわやまじょうせき}唐沢山城跡（佐野市）－国指定史跡を目指して－

唐沢山城跡は中世から近世初頭にかけての佐野氏の居城です。関東七名城の一つにも数えられています。標高242mの山頂本丸周辺には、堅牢な高石垣が残されていますが、関東で数少ない貴重なものです。また、山麓には家臣団の居住地であった根小屋が広く残されています。

このため、山頂から山麓まで城郭遺構が良好に残る極めて稀な城跡といえます。現在、佐野市教育委員会では、平成25年度の国指定史跡化を目指し調査事業を進めています。

23年度の遺構確認調査では西麓の根小屋のうち、^{おだいどころ}御台所周辺の調査を実施しました。調査の結果、北東縁辺部で確認された2つの石列が注目されます。まず、地表近くで、長さ30m程続く石列を確認しました。更に、その下層から、形状の異なった石列が確認されました。下層の石列は、長方形の平らな石が一行に4つ並び、上面が水平に据えられていました。詳しいことはわかりませんが、下層の石列は、庭園等の足場に用いられる飛石の可能性も考えられ、将来的な調査に期待がかかります。

佐野市教育委員会（0283-61-1174）



唐沢山城跡本丸と御台所



御台所で確認された2つの石列

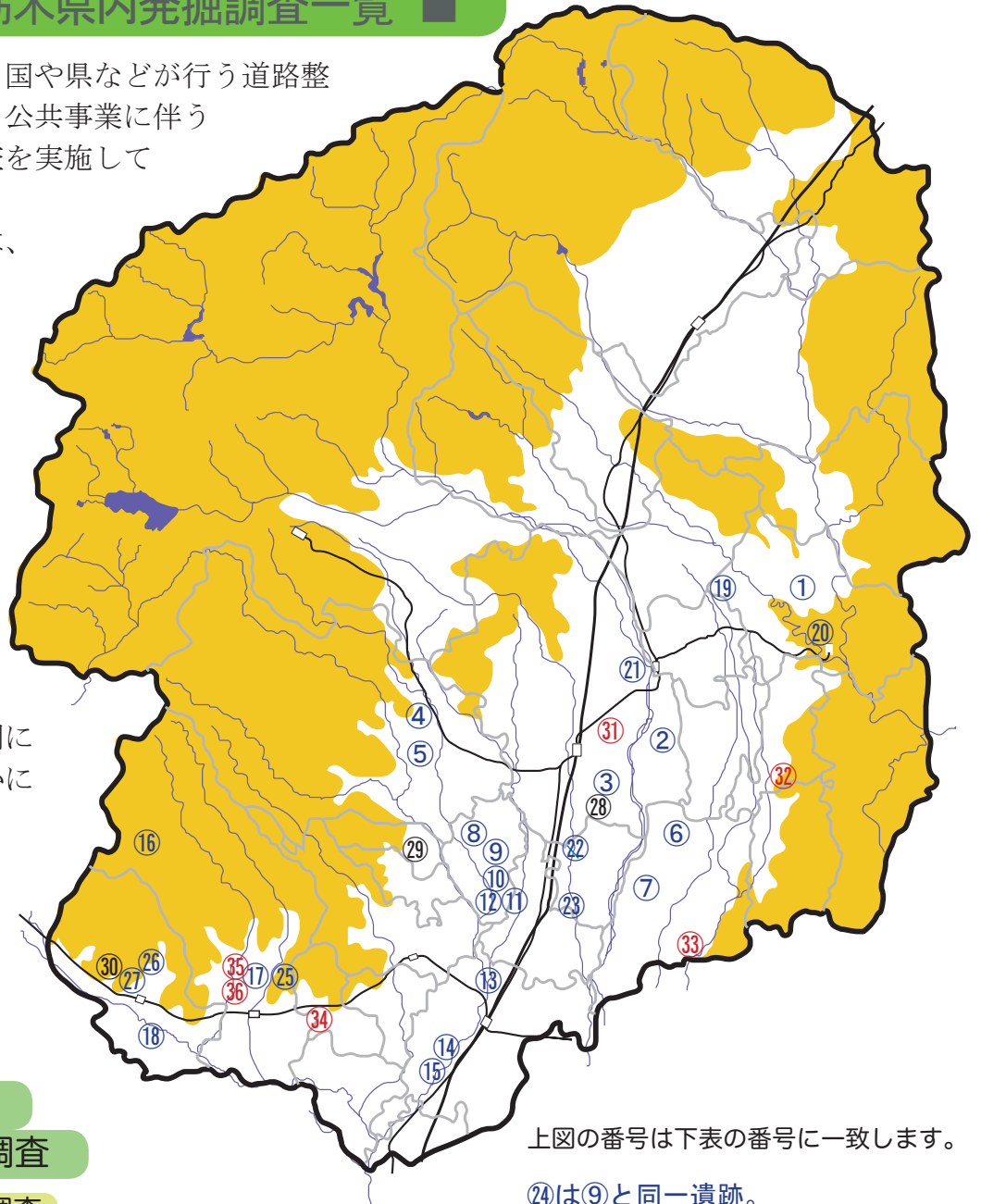
■ 平成23年度栃木県内発掘調査一覧 ■

埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路整備や圃場整備事業などの、公共事業に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は、市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は遺跡の内容を明らかにするための発掘調査や、史跡整備のための発掘調査も行っています。

このほか、大学など県・市町教育委員会以外の機関による、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。



上図の番号は下表の番号に一致します。

②④は⑨と同一遺跡。

◎市町教育委員会が実施した発掘調査

●記録保存のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
①	猪内遺跡	那須烏山市	古代・中世
②	竹下遺跡	宇都宮市	縄文
③	芋内遺跡	宇都宮市	古代
④	鹿沼城跡	鹿沼市	中世
⑤	竜地遺跡	鹿沼市	古墳～古代
⑥	西海道遺跡	真岡市	縄文・古代
⑦	大谷Ⅰ遺跡	真岡市	古代
⑧	新郭古墳群	壬生町	古墳
⑨	塚越1号墳	壬生町	古墳
⑩	車塚古墳群	壬生町	古墳
⑪	車塚5号墳	壬生町	古墳
⑫	壬生城跡	壬生町	中世・近世
⑬	烏久保遺跡	小山市	古代
⑭	粟宮宮内遺跡	小山市	古墳～古代

⑮	間々田八幡前遺跡	小山市	中世
⑯	町屋遺跡	佐野市	縄文
⑰	一丁田遺跡	佐野市	縄文～古代
⑱	中沖遺跡	足利市	古代

●史跡整備等のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑲	長者ヶ平官衙遺跡	那須烏山市	古代
⑳	烏山城跡	那須烏山市	中世・近世
㉑	岡本城跡	宇都宮市	中世
㉒	上神主・茂原官衙遺跡	上三川町	古代
㉓	下野薬師寺跡	下野市	古代

(本調査を実施した遺跡の一覧。確認調査は除外した。)

■ 平成23年度栃木県発掘調査動向 ■

平成23年3月11日の東日本大震災は、本県にも甚大な被害を及ぼしましたが、埋蔵文化財もその例外ではなく、平成23年度は、破損した出土遺物等の対応に追われた市町も数多くありました。

昨年度、県内では一覧表に示した36件の発掘調査が実施されました。

市町で史跡整備等のための発掘調査は9件行われました。那須烏山市の長者ケ平官衙遺跡では、総柱礎石建物跡2棟以上、掘込事業を持つ掘立柱建物跡2棟、溝1条を調査しました。上三川町の上神主・茂原官衙遺跡では、東山道に接する入口部分の施設が確認されました。下野市の下野薬師寺跡では古代の大型竪穴建物跡を調査しました。足利市の足利学校跡は、西側の堀の発掘調査を行いました。

次に市町が行った開発に伴う記録保存のための発掘調査のうち、主なものを時代順にみてみます。縄文時代中～後期の集落である宇都宮市竹下遺跡では、竪穴住居跡と袋状土坑（貯蔵穴）が多数発見されました。壬生町では、新郭古墳群と車塚古墳群を調査しました。「新郭30号墳」では、埋葬施設は盗掘を受けていましたが、古墳の周りに周溝（堀）がない、簡略化された古墳であることが判りました。車塚古墳群では、円墳9基、方墳1基等を新たに確認し、石室内から瑪瑙製勾玉、水晶製切子玉、金銅張の耳環（耳飾り）が発見されました。古代の集落としては、真岡市大谷Ⅰ遺跡、西海道遺跡、小山市烏久保遺跡、栗宮宮内遺跡等が調査されました。鹿沼城跡では、「御殿場」と呼ばれる箇所、中近世の掘立柱建物跡2棟を調査しました。間々田八幡前遺跡からは、「鎌倉道」と考えられる両側に側溝をもつ道路跡が発見されました。

学術調査としては、新潟大学による宇都宮市権現山遺跡、立正大学による足利市機神山古墳群、國學院大學栃木短期大学による栃木市城内町古墳群1号墳の発掘調査が行われました。

埋蔵文化財センターでは、土地基盤整備事業と県道建設に伴う記録保存のための発掘調査が中心でした。市貝町星ノ宮遺跡は中近世の掘立柱建物跡と井戸跡が多数発見されました。真岡市市ノ塚遺跡は、縄文時代早期と古墳時代前～後期の集落跡を調査しました。宇都宮市平出城跡では、今回の調査で、外堀の平面形が城内に向かって凹むことが判りました。城内から掘立柱建物跡、井戸、地下式坑、長方形土坑等が発見されました。佐野市興聖寺城跡では、土塁西側の堀の部分が対象となり、佐野市寺之後遺跡では古代の竪穴住居跡4軒を調査しました。重要遺跡範囲確認調査で岩舟町甲塚古墳を調査し、周滄出土の埴輪や土器から、6世紀後半の大型円墳であることが判りました。

発掘調査の件数は、昨年度と同数ですが、記録保存のための発掘調査が減り、史跡整備等のための発掘調査が増加しました。また、北関東自動車道開通記念に栃木、茨城、群馬持ち回りで行った「つながる北関東発掘展」、埋蔵文化財センター20周年記念展「先人たちとの出会い」や県立博物館、市町の博物館、資料館等で、発掘調査の出土品が公開されるなど、埋蔵文化財の保存、活用への取り組みが行われています。

②4	塚越1号墳	壬生町	古墳
②5	唐沢山城跡	佐野市	中世
②6	樺崎寺跡	足利市	中世
②7	足利学校	足利市	中世・近世

◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
③1	平出城跡	宇都宮市	中世
③2	星ノ宮遺跡	市貝町	縄文～古代
③3	市ノ塚遺跡	真岡市	縄文～近世
③4	甲塚古墳	岩舟町	古墳
③5	興聖寺城跡	佐野市	中世
③6	寺之後遺跡	佐野市	古墳～古代

◎その他の機関が実施した遺跡の

内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
②8	権現山遺跡	宇都宮市	古墳
	調査主体者	新潟大学	
②9	城内町古墳群1号墳	栃木市	古墳
	調査主体者	國學院大學栃木短期大学	
③0	機神山古墳群	足利市	古墳
	調査主体者	立正大学	

■平成24年度巡回展 栃木の遺跡 —最近の発掘調査成果から— ■

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されております。その成果をできるだけ早く、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展 栃木の遺跡」を開催しております。今年は県南・県央・県北の県立3施設において、下記の日程で開催します。ぜひ、ご来場ください。

展示遺跡と主な展示資料

旧石器時代

稲荷塚遺跡（鹿沼市）石器

縄文時代

三ツ木西和久遺跡（那須烏山市）縄文土器・石鏃・石錐

神畑遺跡（足利市）縄文土器・土偶・石鏃・剥片

稲荷塚遺跡（鹿沼市）縄文土器

弥生時代

菅田古墳群（足利市）弥生土器

古墳時代

稲荷塚遺跡（鹿沼市）土師器

菅田古墳群（足利市）埴輪・副葬品（大刀・刀装具）

大明神遺跡（壬生町）土師器

塚越1号墳（壬生町）副葬品（珠文鏡）

車塚古墳群（壬生町）副葬品（耳環・玉・鉄鏃）

樺崎渡戸古窯跡（足利市）須恵器

和田遺跡（足利市）土師器

古代（奈良・平安時代）

和田遺跡（足利市）土師器・須恵器・八稜鏡

中世

薬師寺城跡（下野市）かわらけ・仏具

野高谷薬師堂遺跡（宇都宮市）青銅製品



土偶（神畑遺跡）



横穴式石室（菅田古墳群）



須恵器（樺崎渡戸古窯跡）



八稜鏡（和田遺跡）

❖ 開催館のご案内 ❖

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

平成24年4月21日（土）～6月17日（日）

下野市国分寺993 TEL0285-44-5049

○栃木の遺跡展示解説会

6月17日（日）15:00～16:30

※埋蔵文化財センター発掘調査報告会（会場同センター）のあと、資料館でセンター調査担当者が展示資料を解説します。

栃木県立博物館

平成24年7月21日（土）～9月17日（日）

宇都宮市睦町2-2 TEL028-634-1311

栃木県立なす風土記の丘資料館

平成25年2月9日（土）～3月17日（日）

展示会場は小川館になります

那珂川町小川3789 TEL0287-96-3366

○風土記の丘成果発表会・遺跡発表会

2月17日（日）10:00～ 定員60名

利用案内（3館共通）

開館時間 9:30～17:00

（入館は16:30まで）

休館日 月曜日（祝日・休日を除く）

祝日・振替休日の翌日

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及資料課まで TEL 0285-44-8441

